

【事例報告】

「夕涼みフェスタの運営をとおして見えてきた川と人との関係」

報告者：春日部商工会議所青年部 夕涼みフェスタ実行委員長 柳生将輝氏

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました春日部商工会議所青年部夕涼みフェスタ実行委員長を仰せつかりました柳生と申します。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。私は、このような大勢の前で話すのは初めてでございますのでお聞き苦しい点もあるかと思いますがよろしくお願ひいたします。

それでは、8月18日に行われました夕涼みフェスタの事例報告ということで、本来であれば、5時間ほどかかる事例報告となりますが、内容を凝縮してお話しさせていただきますと思います。

まず、夕涼みフェスタとはどのようなイベントなのかということについて話したいと思います。春日部商工会議所青年部が生んだイベントということで、今回で6回目を迎えることとなりました。私は、第1回目の時はまだ青年部に入会していませんでしたが、聞いた話によりますと、春日部駅東口の「けいらく」というお店の石川さんが、地元を盛り上げるためにこのようなイベントをやってみようということで、始めたのがきっかけだと聞いております。そして、趣旨は、古利根川と公園橋の素晴らしさを皆さんに知ってもらって、春日部市を好きになってもらいたい。そのために皆さんと協力して、このイベントを定着させ、春日部を盛り上げていきたいというものでございます。

次に、イベントの内容ですが、大きく5つございます。一つ目がボート遊覧でございます。読んで字の如く、ボートに乗って古利根川を回っていただくといったものでございます。二つ目は、カヤック教室で普段川に触れることのない人もこういったイベントを通して川に触れていただくといった内容です。三つ目は、グルメコーナーで、こちらは春日部を代表するような飲食店に出店していただき、皆さんに楽しんでいただくという内容でございます。そして四つ目は、ゲームコーナーで、「スーパーボールすくい」と青年部が自作したゲームを皆さんにお楽しみいただくといった内容でございます。そして、五つ目は今年から始まりましたナイヤガラ花火で、皆さんのご協力をいただきまして実現することができた花火でございます。昨年は、ステージ（楽器演奏など）と灯籠流しも行いましたが、今年は予算の都合上いったんお休みさせていただきました。ステージと灯籠流しは一時休止となりましたが、来年、私がお金をだすのでこういったことをやってください、という方がいればという思いで記載させていただきました。ぜひ、よろしくお願ひいたします。

イベント内容を個別に見ていきます。まず、ボート遊覧になります。良かった点は、口コミで市外からの来客も多く、参加者が35組（145名）ございました。改善点といたしましては、参加希望者が多く、イベント途中で予約でいっぱいになってしまったことです。ボートの台数を増やすか、遊覧時間を縮めるなどの対策が必要であると考えておりま

す。次に、カヤック教室です。草加市の草加パドラーズという団体にボランティアでご協力いただき実施しましたが、中学1年生数名が指導員として協力していただきまして、テキパキと進めていただき、普段の活動が垣間見えて非常に好評でございました。改善点でございますが、イベントのPR方法を考えた方がいいのではないか、また、参加希望者が非常に多く、すぐに予約でいっぱいになってしまったことです。先ほどのボート遊覧といっしょですが川に入って遊びたいという来場者が非常に多かったという結果でございました。次に、グルメコーナーですが、こちらも来場者が多く、商品が完売した店舗がありました。改善点としては、商品の提供に時間がかかりすぎて、お客様をお待たせしてしまったので、業者との事前の打合せが必要であるといった内容でございました。続きまして、ゲームコーナーですが、こちらは新しく考えた「水鉄砲射的」が非常に好評でございました。最後に花火でございますが、話題性がありまして来場者の増加につながりました。また、ご協賛や準備段階でのご協力をいただき、事故なくスムーズに行うことができたといった内容でございます。

こちらが番外編とありますが、打ち水を開会のセレモニーの締めくくりの部分で実施しました。こちらは、種村副市長から提案がありまして、このようなことをやったらどうかということで、実施いたしました。何が良かったのかということ、いままではこのイベントは商工会議所青年部がつくったイベントなので、自分たちだけで内容や準備も進めていきましたが、色々な方の声を聞いたりご協力をいただくということで、盛り上がりもできてきましたし、今後、青年部の会員も減少傾向になることが予想されていますが、そういった中で、自分たちができなくても春日部の市民の皆さんが助けてくれるということが、私自身も勉強になったイベントでございました。

このようなイベントを開催することで、結果として過去最大の来場者数で大成功をおさめることができました。もちろん、実行委員長である私の力ではございません。それだけ伝えておきたいと思います。

最後に、こちらでまとめとさせていただきます。

夕涼みフェスタを通して見えてきた川と人との関係。

平成30年3月某日一。

春日部商工会議所青年部竹中会長から、一本の電話がありました。

「お前、夕涼みフェスタの実行委員長やってみないか。いや、できるのはお前しかいないんだ。」

この力強い言葉を聞き、会長がそこまで言うなら、と私は二つ返事で引き受けました。

しかし、「お前しかいない」の意味が、「数人いた候補者に声を掛けたが全て断られたため、もうお前しか残っていない」と、仕方なく私に声を掛けたのだと聞かされたのは、雨の降る古利根公園橋の上でした。

こうして、夕涼みフェスタ実行委員長になった私ですが、数か月後、企画に行き詰まり、スランプに陥ってしまいます。

何もする気が起きず、廃人となった私に、草加パドラーズの中島さんが声を掛けてくれました。

「一度私のところに来て、カヤックに乗ってみませんか？」

あまり気が乗りませんでしたでしたが、行ってみると、

「カヤックってこんなに楽しいんだ。川ってこんなに素晴らしいんだ。」

という感情が芽生えました。

そこで、私に足りなかったのが、「川を愛する気持ち」であったことに気づかされました。

これが、「夕涼みフェスタの運営をとおして見えてきた川と人との関係」の一つ目、

『見るだけでなく、実際に触れることで古利根川がもっと好きになる。そのために、触れる機会をもっと増やしたい』

という思いです。

その後、夕涼みフェスタの準備を進めていくなかで、いろいろな方と携わる機会がありました。

右も左もわからない私に、多大なご協力とアドバイスをくださった、春日部市長を始めとする春日部市職員の皆様。

頑張れと励ましてくださった、近隣の商店街の皆様や、住人の皆様。

イベントを盛り上げてくださった、ボランティアの皆様。

準備から片付けまで一緒に汗を流した、春日部商工会議所青年部の仲間たち。

とにかく、全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

これが、「夕涼みフェスタをとおして見えてきた川と人との関係」二つ目、

『このイベントを通して、古利根川が人と人をつなぎ付けてくれた』

このことに対する感謝と、このイベントを継続することの大切さを知りました。

そして、資料に書いてはおりませんが、「夕涼みフェスタをとおして見えてきた川と人との関係」三つ目として、夕涼みフェスタがなければ、そして、私が夕涼みフェスタの実行委員長になっていなければ、絶対になかったこと、それは、

『今日こうして皆様にお会いできたこと』

ご清聴ありがとうございました。